

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科目区分	その他	授業の方法	講義演習	
科目名	地域在宅看護実践論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)	
対象学年	2学年	学期及び曜時限	後期	教室名	新館2階、3階	
担当教員	田村 照子 柏原 弘子	実務経験と その関連資格	看護師として病院、施設等で12年勤務 教育機関で勤務 看護師として病院、施設等で19年勤務 教育機関で勤務			
《科目目標》						
1) 在宅で療養する神経難病事例についてICFの視点を重視し、目標達成思考で看護過程が展開できる。 2) 状況設定に応じた援助計画を立案し模擬実践ができる。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】訪問マナー演習(5%)授業態度(5%)と実習・演習(30%)、課題(50%)、小テスト(10%)を含め合計100点満点で評価。 但し、課題提出遅れや授業中の私語、積極性や協同性の欠如が見られた場合は減点とする。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
1) ナーシンググラフィカ 16巻 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 2) ナーシンググラフィカ 17巻 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 3) 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社						
《授業外における学習方法》						
① 事前・事後学習を行い授業に出席する。課題提出は必須。 ② Teamsに送られる、資料、伝達は各自で必ず確認する。 ③ 提出物は、クラス単位で回収し指定した時間を守り提出する。 ④ 主体的な学習姿勢で取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
① 既習学習のICFの概念について理解する。 ② 技術演習では基礎看護技術(日常生活援助・診療の補助)、暮らしの中の援助(生活ケア・医療的ケア)で学習した援助を活用し、状況設定に応じた援助を考え模擬実践する。 ③ グループワークや意見交換は時間を有効に主体的な学習姿勢で臨む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える社会資源(医療・福祉用具)を知る				慢性期医療展に参加し課題を期日までに提出。
	各コマにおける授業予定	・在宅で利用する医療・福祉用具と保健適応 移動・移乗・体位変換、排泄・清潔・寝具、嚥下食・経管栄養(胃瘻)、服薬管理、吸入・吸引、呼吸器(HOT・NPPV・TPPV)				
第2回	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える未来の福祉を考える				
	各コマにおける授業予定	1. 学生ディベート大会1)「介護と福祉の未来に必要なものとは」と2)「超高齢者どんな最強のおじいちゃんやおばあちゃんか」 1)①お金、②愛③仕組み④人についてディベート大会に参加準備 2. 職種トークセッション「なぜこの職業に？」				
第3回	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える未来の福祉を考える				「とよなかフクシてん」に参加し、課題を期日までに提出。
	各コマにおける授業予定	①映画「ジブングト」を視聴 ②学生ディベートに参加 ③講演「あなたの大切な人を守るがん検診について」 ④職種トークセッション「なぜこの職業に？」				
第4回	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える未来の福祉を考える				「とよなかフクシてん」に参加し、課題を期日までに提出。
	各コマにおける授業予定	①映画「ジブングト」を視聴 ②学生ディベートに参加 ③講演「あなたの大切な人を守るがん検診について」 ④職種トークセッション「なぜこの職業に？」				
第5回	授業を通じての到達目標	地域創生の実際を考える				いきてゆくフェスに参加し担当ブースの企画・運営
	各コマにおける授業予定	豊中市「いきてゆくフェス2026」に参画する				
第6回	授業を通じての到達目標	地域創生の実際を考える				いきてゆくフェスの担当ブースの企画運営 終了後学び・感想の課題を期日までに提出
	各コマにおける授業予定	豊中市「いきてゆくフェス2026」に参画する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護看護論実習Ⅱの準備ができる	iPad 携帯電話 動画視聴 訪問時の援助計画 (マナー含む初回)	テキスト2)のP20～24を読んで訪問時の援助計画を立案しよう～
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の交通ルールを知って守ろう～</li> <li>・地図アプリで目的地を探してみよう～</li> <li>・訪問看護をイメージし、訪問初回時の援助計画立案(30分)</li> </ul>			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護看護論実習Ⅱの準備ができる ALS疾患の理解を深め、必要な看護を考える	テキスト1) iPad フェイスシート	課題:ALSワークシート 訪問時マナー援助計画を立案し演習に参加  マナーチェックリスト提出 授業終了後にフェイスシート提出
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問時のマナー援助計画立案の実施 1G5分×10G</li> <li>・ALSの解剖生理、病態の理解 疾患・治療・看護の用紙で学習</li> <li>・フェイスシートに必要な基本情報を収集</li> </ul>			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅療養に必要な情報の整理・分析・解釈までの思考過程が理解できる	テキスト1)2)3) iPad  情報整理 アセスメントシート	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALS患者の利用できる制度の復習</li> <li>・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)で情報を整理し、アセスメントと療養者・家族の望みと療養上の課題を把握</li> </ul>			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅療養に必要な情報の整理・分析・解釈までの思考過程が理解できる	テキスト1)2)3) iPad  情報整理 アセスメントシート	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)で情報を整理し、アセスメントと療養者・家族の望みと療養上の課題を把握</li> </ul>			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の情報整理・分析・解釈ができる ※個人ワーク	テキスト1)2)3) iPad  関連図	授業終了後で情報整理・アセスメントシート提出
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・55歳ALSの全体像を把握し関連図で問題を明確にする</li> <li>・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)</li> </ul>			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の情報整理・分析・解釈ができる ※グループワーク	テキスト1)2)3) iPad  関連図	授業終了後に関連図を提出
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・55歳ALSの全体像を把握し関連図で問題を明確にする</li> <li>・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)</li> </ul>			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人への援助と家族支援の援助計画が立案できる ※グループワーク	テキスト2) iPad  援助計画 2枚 訪問記録	授業終了後 援助計画を提出
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)療養者、家族の<b>健康管理</b>の援助計画を立案する <ul style="list-style-type: none"> <li>①VSと症状観察</li> <li>②呼吸:気管切開、人工呼吸器管理</li> <li>③栄養:PEG管理 ほか</li> </ul> </li> <li>2)療養者、家族の<b>生活援助</b>の援助計画を立案する <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践可能な生活援助を計画する</li> <li>・家にあるもので工夫をひとつ作成 例)文字盤によるコミュニケーションの練習 簡易ケリーパッドによる洗髪 ペットボトル洗浄器による手浴 ホットタオルによる温電法など</li> </ul> </li> <li>・受け持ち療養者訪問記録の訪問目標を記載する</li> </ul>			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人への援助と家族支援を模擬実践できる	iPad  援助計画 訪問記録	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に健康管理、生活援助の計画に基づき実践。 必ずVS測定、観察を実施すること。 VSで体調を確認した後に生活援助を実施。 1人18分×3～4=72分</li> <li>・療養者、学生、家族兼看護師役、<b>動画撮影</b>を実施。</li> <li>・家族役は、今の困りごとを相談する。</li> </ul>			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人と家族支援の実践を評価できる ※個人ワーク	援助計画 訪問記録	授業終了後 援助計画(SOAP)提出 訪問記録提出
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各自動画を視聴し自分の実践を振り返る援助計画のSOAPを記載 次回訪問時の改善や工夫点を明確にする</li> <li>・受け持ち療養者(訪問記録)の訪問の実際と考察を考え記録する</li> </ul>			